

水田等の高度利用と新作型開発によるアスパラガスの周年供給体系

1 中核機関・研究総括者

長崎県総合農林試験場 井上 勝広

2 研究期間

2006～2008 年度（3年間）

3 研究目的

新たな「食料・農業・農村基本計画」では、国産野菜のシェア奪還に取り組むこととされている。アスパラガスは国内消費量の約 50%を輸入が占めており、国内産の周年供給生産の早急な技術確立が求められる。特に厳寒期の 11 月～2 月上旬が国内産アスパラガスの端境期となっており、冬期はほぼ輸入品に独占されている。この輸入アスパラガスに対抗するため、端境期に出荷可能な作型の開発が急務である。

また夏場は高温障害により、長期の連作圃場では連作障害により、アスパラガスの収量・品質が低下し、その対策が大きな課題となっている。

このため、新たな作型開発や連作障害対策技術の確立による水田等の高度利用としてアスパラガスの周年供給体系を確立する。

4 研究内容及び実施体制

- ① 周年供給のための新作型の確立（（独）九州沖縄農業研究センター、長崎県総合農林試験場、大分県農林水産研究センター）
周年供給のための収穫期間の延長技術、効率的な伏込み促成栽培技術等による新作型を開発する。
- ② 生産不安定要因の解消による増収・品質向上技術の確立（佐賀県農業試験研究センター、長崎県総合農林試験場、大分県農林水産研究センター）
連作障害対策技術、有望品種等の選定、夏季昇温抑制技術、灌水同時施肥技術等による増収・品質向上技術を開発する。
- ③ アスパラガス周年供給体系の経営評価と定着条件の解明（長崎県総合農林試験場）
各技術等の経営評価を実施し、販売方法・販売体制を提示する。

5 目標とする成果

周年供給のための新作型と生産不安定要因解消による増収と品質向上技術を確立し、周年供給体系の経営評価と定着条件を解明する。

これにより、国内産アスパラガスの安定生産と面積拡大に大きく貢献でき、社会的・経済的意義は高いと考える。また農家経営の安定化と農作業の分散化、省力化が図られ、普及性、波及性も高いと期待される。

水田等の高度利用と新作型開発による アスパラガスの周年供給体系

